

1. 事例6-1

〈幼稚園への入園〉幼稚園4歳児クラスへの編入

ゆりちゃんは、幼稚園の3年保育4歳児クラスへ編入してきた子どもであった。入園前には、保護者からゆりちゃんの成育歴や現在の育ちについて相談があり、自閉的傾向があるため、幼稚園の他に2歳頃から通っている別の通園施設があるということだった。入園面接では、園長の呼びかけに一言も発することなく、職員室の一角に設けられた病児用ベッドコーナーにあったおもちゃを見つけ、無表情に黙々と遊んでいた。ゆりちゃんの様子を知った幼稚園は、教育委員会に申請した結果、担任の保育者以外にゆりちゃんのために保育者が一人、加配の保育者として配置されることになった。

課題1 実習先で出会ったゆりちゃんのような子どもについて、その子どもの様子や保育者の関わり方について、互いに報告し合ってみよう。また、実習生として関わった経験がある場合には、その時のことについても振り返ってみよう。

2. 事例6-2

〈入園から1学期頃の様子〉加配の保育者との関係

加配の保育者であるなみき先生は、周りの友達に関心を示さず、園内をめまぐるしく動き回るゆりちゃんについて歩いていた。ゆりちゃんは、誰もいない遊戯室やみんなが遊んだ後の砂場などで過ごすことを好んだ。なみき先生は、地道に一生懸命にゆりちゃんとの関係を作り上げていった。二人っきりで職員室の病児用ベッドコーナーにこもるような濃密な時間をしばらく過ごしていくうちに、なみき先生は、ゆりちゃんにとって安心して園生活を送る上で大切な存在となっていった。朝の身支度から食事や排泄など、全ての活動をなみき先生に手伝ってもらいながら、体調により休みがちではあったが、通園施設に通う水曜日以外の月・火・木・金の週4日を幼稚園で過ごした。

担任のさとう先生は、保育前・保育後を中心になみき先生からゆりちゃんの様子を聞き、また、登園や降園の際に保護者との会話を極力心がけながら、ゆりちゃんが少しずつでもクラスの中で安心して過ごせるようにいろいろと工夫し、気を配っていた。

課題2 保育者同士の意思の疎通や、協力体制として、どのような方法があるだろうか。

課題3 園と保護者とのコミュニケーションについて、どのような方法があり、どんな点に気をつけたらよいだろうか。

3. 事例6-3

〈2学期に入ってからの様子〉他児とのトラブルが増える

2学期になると、ゆりちゃんなりに園生活に慣れ、次第に自分のクラスで過ごす時間が増えてきていた。なみき先生は、さとう先生が直接ゆりちゃんと関われるチャンスや場面を捉えては、担任のさとう先生につなぐようにした。必要に応じて、ゆりちゃんとの関わりを控えることもした。

そんな中、何かにつけゆりちゃん和他児とのトラブルの場面が増えてきた。例えば、製作活動中の他児が座っていた椅子にゆりちゃんが近づいていき、その子が材料を取りに行っている間に何も言わずにすっと腰かけたり、楽器遊びの際、何種類かの楽器を並べ、やりたい楽器を交替で順番に鳴らしていたとき、ふらふらとゆりちゃんが近づき、好きなように鳴らし始めたり、といった場面であった。相手の子どもが何か言ってどかさうとしたり、止めさせようとしたりすると、ゆりちゃんは、何も言わず相手の顔をつかんで引っ張り、なみき先生が急いで間に入って止めさせることがしばしば起きた。なみき先生は、ゆりちゃんの手をもって「〇〇ちゃんが痛いから離します」とゆっくりと言いながら、止めさせていた。

課題4 ゆりちゃん和他児とのトラブルに対して、すぐに間に入ってゆりちゃんが相手の子どもの顔を引っ張るのを止めさせているなみき先生の関わり方について、話し合ってみよう。

4. 事例6-4

〈クラス活動への参加①〉保育室から出て行こうとする

そんな2学期のある日のクラスの集まりのとき、次のような場面があった。
さとう先生が、片付けを知らせると、片付けの終わった子ども達はそれぞれ自分の椅子を持って来て丸い隊形になって座りはじめた。ゆりちゃんは、片付けの雰囲気は理解している様子だったが、周りに子ども達が集まり始めると反対に廊下に出ていこうとして、なみき先生に止められていた。なみき先生は、ゆりちゃんの分の椅子を輪の中に用意し、なぜ今集まるのか、その理由を伝えようと一生懸命説明していたが、保育室を出て行こうとするゆりちゃんと保育室の出入り口のところで引っ張りっこのようになっていた。

課題5 いやがるゆりちゃんを引き戻そうとしているなみき先生の関わり方について、なぜ、なみき先生はそうに関わったのだろうか。

5. 事例6-5

〈クラス活動への参加②〉ピアノの音色に誘われて

クラスの子も達ほとんど集まり、タイミングを見てさとう先生がピアノを弾き出して子ども達の歌が始まると、ゆりちゃんは、突然自分から戻ってきて椅子に座った。子ども達の元気な歌声が響く中、ゆりちゃんは、何やら大きな声でなみき先生に話しかけている。それは、今みんなで歌っている歌の歌詞であった。ピアノの近くにあるボードにさとう先生が歌詞を書いた紙が貼られていて、ゆりちゃんはそれをなみき先生に確認するように大きな声を出して読んでいたのだった。

課題6 それまで保育室に入ることを嫌がっていたゆりちゃんは、なぜ突然自分から保育室へ入ってきたのだろうか。

6. 事例6-6

〈クラス活動への参加③〉他児から上がった声

そのうちに、歌を歌っていた近くの子も達が、「ゆりちゃん、言わないで!」と口々に声を上げ始め、中にはゆりちゃんの口をふさごうとする子どももいた。なみき先生も困った様子でさとう先生の方を見ながら、ゆりちゃんの耳元で何事かを一生懸命繰り返し伝えていた。

課題7 ゆりちゃんに「言わないで」と声を上げた周囲の子も達の気持ちについて考えてみよう。また、クラス活動への参加①～③を通して見て、クラスの他の子ども達とゆりちゃんとの関係をどう育てていったらよいだろうか。